

○ 本校の概要

- ・児童数：291名 学級数：12学級(特別支援学級含む) [令和5年8月29日現在]
- ・明治6年に開校し、今年度開校148年目を迎える区内でも指折りの歴史と伝統をもつ。
- ・令和6年4月、特別支援学級(3組)が開校し、従来のサポートルーム拠点校という特色とともに、特別支援教育の充実を図っている。
- ・今年度も「児童一人一人にとって楽しい学校」(六郷実業科)を目指す学校像とし、「わかる・できるを目指した授業」と「他とのかわり」を大切に活動、教員の指導力向上のための取組により実現を目指す。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価 人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	A4:「学校は楽しい」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「自分の考えを伝えたり、様々な違いを尊重したりできる子供に育っている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	※保護者アンケート回答率93% ◇昨年度の評価結果を受け、一人一人の児童にとって楽しい学校になることが、創造的な子供の育成につながると考え、学習がわかる・できる・友達とのかわりが楽しい・力をつける指導を必要要素として今年度も取り組んだ。 ◇感染症の5類移行に伴い、他者とかかわる活動を増やした。(たてわり活動、児童集会、スポーツタイム、音楽朝会等) ◇展覧会では、自分の作品の工夫や苦労したところ、友達の作品のよさについて来校者に話す活動を全児童が行った。 ◇タブレット端末を自由自在に活用する技能をつけるために、「六郷小タイピング検定」を継続し、児童の技能向上の成果につながった。	A 10	●よく頑張っている状況がよくわかる。次年度も頑張してほしい。(教育課程の完全実施) ●授業改善には一層頑張してほしい。 ●運動会での5・6年生の表現の発表は、演技はもちろんのこと、高学年としての言葉のメッセージが感動的だった。 ●展覧会では参観する私にすすんで作品の見どころを教えてくれる児童がいた。とても分かりやすかった。 ●学童保育にきている1・2年生が、1学期よりしっかりしてきていた。
		理論的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	A3:80%以上。 B3:80%以上。	3: A4 B4	◇「わが校」をテーマにした授業と、1単位時間の中で前時までの学習内容を確認したり、本時の学習を振り返ったりする活動を設定した授業づくりに努めた。	B	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4	A2:70%以上。 B2:70%以上。	2:	◇授業観察時には、授業改善推進プランを明記した指導案を作成するようにし、確実な実施を目指した。	C	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	A1:70%未満。 B1:70%未満。	1:	◇宿題への確実な取組等、家庭との連携を図り、学習内容の確実な定着を図っていく。	D	
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	A4:当該学年の四則計算の定着度及び漢字検定の合格率が90%以上。 B4:「子供は基礎学力が身につけている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	◇「わが校」をテーマにした授業と、1単位時間の中で前時までの学習内容を確認したり、本時の学習を振り返ったりする活動を設定した授業づくりに努めた。	A 10	●一回一回の授業への取組について次に生かすようなサイクルができていることが質の向上につながると思う。 ●担当する各先生方の努力が授業に生かされていた。特に展覧会では、作品について各子どもが説明し、特色を語るなど、力を発揮した。こうした「場の提供」を大事にしたい。 ●特別支援学級は落ちついた環境で運営されている。 ●タブレット端末は使えるのか心配していたが、使いこなせる児童が多かった。1年生もかなり使えるようになっていた。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期毎に知らせた。 3:学期中に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	A3:80%以上。 B3:80%以上。	3: A2 B3	◇基礎的・基本的な内容の定着を図るために効果があった、「六郷小復習重点ウイーク」「六郷小復習重点ウイーク」「六郷小読書週間」を継続した。	B	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	A2:70%以上。 B2:70%以上。	2:	◇自己肯定感や他者を尊重する心の育成にさらに努めていく。児童一人一人のよさが発揮でき認め合える機会をさらに増やしていく。そのために、特技発表集会等の今年度実施した新たな取組の充実を図っていく。	C	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	A1:70%未満。 B1:70%未満。	1:		D	
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	中小一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	A4:「人にやさしくしたりみんなと仲良くしている」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「一人一人を大切にしたい」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	◇規律ある学校が継続するように、「六郷スタイル」の徹底に取り組んだ。特に挨拶と言葉遣いを重点項目とした。子供が挨拶ができるようになっていくのを問う保護者アンケートでは、肯定的な回答が90%に達した。	A 9	●登下校時の児童の様子をよく見かける。いつも楽しそうにしているのが、学校が楽しいとわかり安心している。 ●児童館では一般利用の6年生男子が小さい子の面倒をよく見ていてほほえましい。 ●地域、家庭環境などが、「様々な部分を地道に把握し援助する」、「楽しく通える」、「話を聞いてくれる」、そのような場になって欲しい。 ●展覧会で参観者に児童が作品解説をする活動がよかった。児童はこの活動で自信をもてたのではないかと、人に伝えるという活動は教育には必要である。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	A3:80%以上。 B3:80%以上。	3: A4 B4	◇毎学期、いじめについて考える授業と児童アンケートを実施し、個別面談も含めて、いじめや不登校の未然防止と早期発見に組織的に取り組んだ。取組に対する保護者の評価が昨年度より4%向上した。	B 1	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	A2:70%以上。 B2:70%以上。	2:		C	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておたのみのづくりを実施した。 2:必要な事案に対しておたのみのづくりを実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応しなかった。	4	A1:70%未満。 B1:70%未満。	1:		D	
プラン4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心や運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	A4:「運動することが好きである」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「健康教育の取組を推進している」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	◇これまでの2年間、健康教育の取組への評価が高いため、今年度も継続できるように取り組んだ。98%にまで向上した。	A 10	●運動することを喜び、外で遊ぶなど、子供らしさをもち続けてほしい。 ●運動会は寒い日となったが、児童は演技や競技の際には半そでで参加していた。 ●「スポーツタイム」の取組は運動経験を広げ、運動に親しませる良い取組である。 ●多摩川河川敷での持久走大会は本校ならではの取組である。今後も続けてほしい。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	A3:80%以上。 B3:80%以上。	4: A4 B4	◇水泳授業は全学年10時間以上実施し、運動会、持久走大会等の取組を充実させた。スポーツタイムの実施回数も増やし、運動意欲への刺激や運動量の確保に努めた。教員も休み時間に校庭に出て、児童と運動遊びを実施した。	B	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	A2:70%以上。 B2:70%以上。	2: 1:	◇「運動することが好き」の児童は目標の90%まで向上したので、定着を図っていく。	C	
		持久走大会、なわとび月間、スポーツタイムの実施や外遊びの確保、夏季水泳指導の充実、感染症予防等の取組を通して健康増進を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	A1:70%未満。 B1:70%未満。	1:		D	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくりをします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	A4:「授業が楽しくわかりやすい」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「学習活動を工夫して、わかりやすく教えている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3:	◇主任教諭による得意分野を他教員へ指導・助言するOJTを実施し、教員全体の能力向上を図った。また、主任教諭が自主的に専門教科の指導を授業公開として行い、効果的な指導法を共有できた。	A 10	●子供の安心感があふれて親の行事への参加の大きさも以前より上がることがとても良い。 ●勉強が楽しくわかりやすい等、先生方の努力が感じられる。 ●いじめ対策のていねいな説明があり開かれている学校であると思った。また、いじめについてしっかり取り組んでいることが分かった。地域としても協力していきたい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	A3:80%以上。 B3:80%以上。	3: A3 B4	◇特別支援教育に関する校内委員会、情報及び指導法が共有でき、充実化が図れた。結果として児童の意欲的な姿に表れた。	B	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	A2:70%以上。 B2:70%以上。	2:	◇校内整備や「六郷フラープロジェクト」による補修などを進め、学びの場としての環境美化を図った。	C	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:1回以上行った。 3:学期に2~3回以上行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	A1:70%未満。 B1:70%未満。	1:	◇次年度も様々な研修機会を大切に、計画的な実施をしていく。	D	
一歩 体ラ ン な 6 つ て 学 と 校 も に 家 庭 め 地 域 育 が	学校・家庭・地域が担う役割を明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	A4:「地域のことが好き」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「学校は積極的に情報発信している」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4: 3: A4 B4	◇地域環境を生かした「多摩川学習」を新たに企画実施した。 ◇「地域に開かれた学校」の評価の向上を目指し、各種便りやホームページ、緊急メール等での情報発信に努めるとともに、様々な学習・行事への保護者及び地域教育連絡協議会委員の来校を実現した。	A 8	●保護者アンケートの回答率が93.1%と高く、昨年、一昨年と比べても各項目ともに高くなっていることから学校に対する保護者の満足度も高くなっていると思われる。 ●「のび六」として、できることをできるだけ多く探して、子供とともに動きたい。 ●あいさつ、PTA等、連携できるような環境づくりの日頃の取組が生きている。 ●PTA秋祭りは久しぶりの開催であった。町会としても「たこ焼き」を出店した。地域ぐるみの取組となり、良い体験である。今後も地域として協力したい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	A3:80%以上。 B3:80%以上。	3: A4 B4	◇「のびのび六郷応援隊」の協力により、教育活動に関わっていただけの人材を紹介していただき、教育活動が充実した。	B 2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期1回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	A2:70%以上。 B2:70%以上。	2:		C	
		学校行事・授業公開・保護者会・個人面談等を通じた連携による相互理解を教育活動に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	A1:70%未満。 B1:70%未満。	1:		D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。